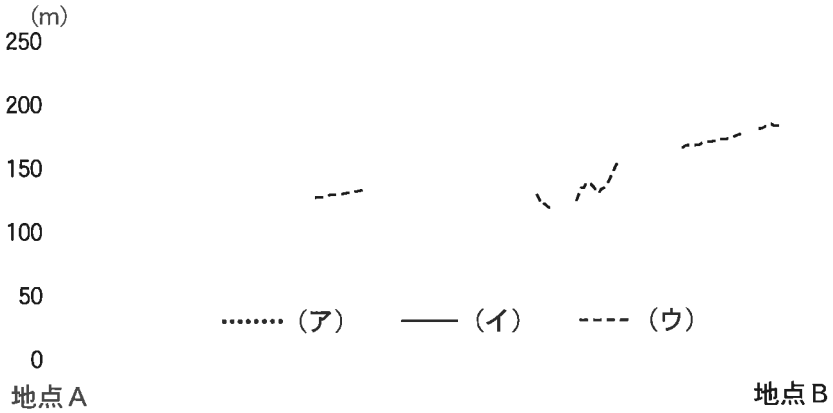
地理歴史

(地理総合，地理探究)

答案作成上の注意

1. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入しなければいけません。
2. 地理総合，地理探究は 37 ページから 46 ページまでです。
3. 解答用紙の受験番号欄は 3 か所です。氏名を書いてはいけません。
   また，※印欄には何も記入してはいけません。
4. 解答には筆記用具，消しゴム以外のものを使用してはいけません。
5. 問題冊子と使用しない解答用紙は持ち帰ってください。

◇M2(706—84)

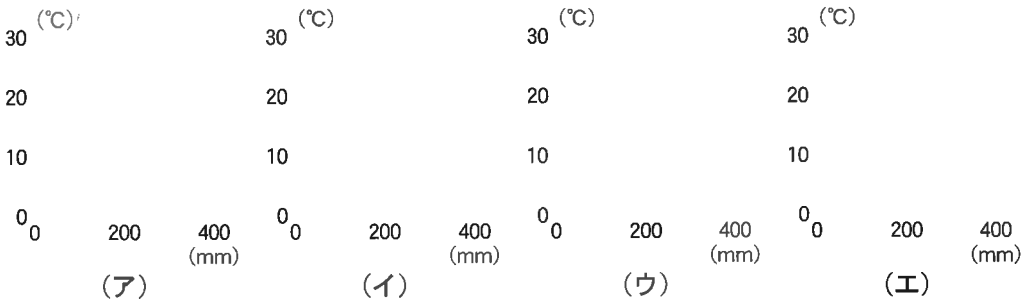


地理院地図により作成。

図　2

問 4　図 1 中の「太田」「西地」「長野」などの集落には複数の池が点在している。その理由を簡潔に説明しなさい。

問 5　図 3 は前橋，富山，室戸岬，那覇のハイサーグラフである。前橋と室戸岬に該当するものを図 3 中の(ア)～(エ)から一つ選び，記号で答えなさい。



数値は 1991～2020 年の平年値。

データブック　オブ・ザ・ワールド 2024 年版により作成。

図　3

問 6　図 1 中の地点 C で想定される地震と津波のメカニズムを簡潔に説明しなさい。ただし，「フィリピン海プレート」という言葉を用いること。

問題 2 次の文章をよく読んで，後の問いに答えなさい。

経済が発展すると，第1次産業から第2次産業，第3次産業へと，主力となる産業が変化する(a)。これを産業の（　ア　）化という。第1次産業において機械化や省力化が進むと（　イ　）の人口が減少し，また，第2次産業や第3次産業は主に（　ウ　）に立地することから，産業構造の（　ア　）化は（　ウ　）人口の増加をもたらす。現代の先進国では，産業構造に占めるサービス業の比率が高まるサービス（　エ　）化が急速に進み，第3次産業で働く人々が高い割合を占めている。第3次産業は多岐にわたるが，サービス業の地理的な分布をみると，インターネットを利用したサービスを提供する企業，各種ソフトウェアを制作する企業，映像，音楽，書籍，ゲームソフトなどのコンテンツを制作する企業については，東京都内への集中が著しい(b)。

観光産業は，宿泊業，運輸業，飲食業など関連する業種が多い産業であるため，地域活性化への期待は大きい。こうした期待を背景に，世界各地(c)で（　①　）観光が促進されるようになり，COVID-19の世界的な流行直前には観光産業はサービス貿易の約（　②　）割，世界全体のGDPの約（　③　）割を占めるにいたり，さらなる成長がみこまれている。先進国では（　①　）観光と（　④　）観光が同程度に発達するが，発展途上国ではまず（　①　）観光が発達し，経済的に豊かになったのちに（　④　）観光が発達する。また，一部の観光地への観光客の過度な集中や観光客の迷惑行為によって地域住民の日常生活に支障が出るようにもなっている。これらは（　オ　）とよばれ，外国人訪問者が急増したイタリアやイギリス，日本の京都などで問題となった。

問 1　文中の（　ア　）～（　オ　）に該当する語句を答えなさい。

問 2　以下の中から，文中の（　①　）～（　④　）に該当する語句や数字を選びなさい。

（あ）　聖地巡礼　　（い）　アウトバウンド　　（う）　インバウンド
（え）　大　衆　　（お）　エコツーリズム　　（か）　1
（き）　3　　（く）　7

問 3　下線部(a)に関連して，経済発展にともなって第 3 次産業へ主力となる産業が変化する理由を説明しなさい。

問 4　以下の表は 1953 年～2020 年の日本の産業別就業人口割合を示したものである。解答用紙の 1953 年と 1960 年の三角グラフを参考に，1960 年以降の産業別就業人口割合の三角グラフを作図しなさい。

表　1

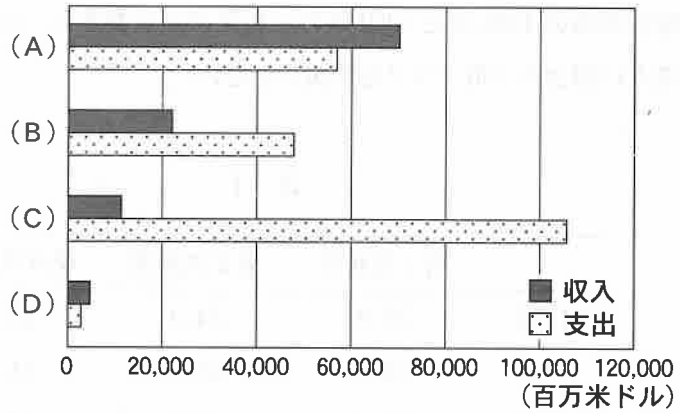
(%)

	第 1 次産業	第 2 次産業	第 3 次産業
1953	39.8	24.3	35.8
1960	30.2	28.0	41.8
1980	10.4	34.8	54.8
2000	5.1	30.7	64.2
2020	3.2	23.1	73.8

独立行政法人労働政策研究・研修機構資料により作成。

問 5　下線部(b)に関連して，コンテンツを制作する企業が東京都内に集中している理由を説明しなさい。

問 6　下線部(C)に関連して，以下の図は日本，アメリカ合衆国，ドイツ，中国の国際観光収入，国際観光支出を示したものである。次の(A)～(D)に該当する国名を以下の語群から選びなさい。



令和 5 年版観光白書(データは 2021 年)により作成。

図　1

(ア)　日　本　　(イ)　アメリカ合衆国

(ウ)　ドイツ　　(エ)　中　国

問題 3 次の文章をよく読んで，後の問いに答えなさい。

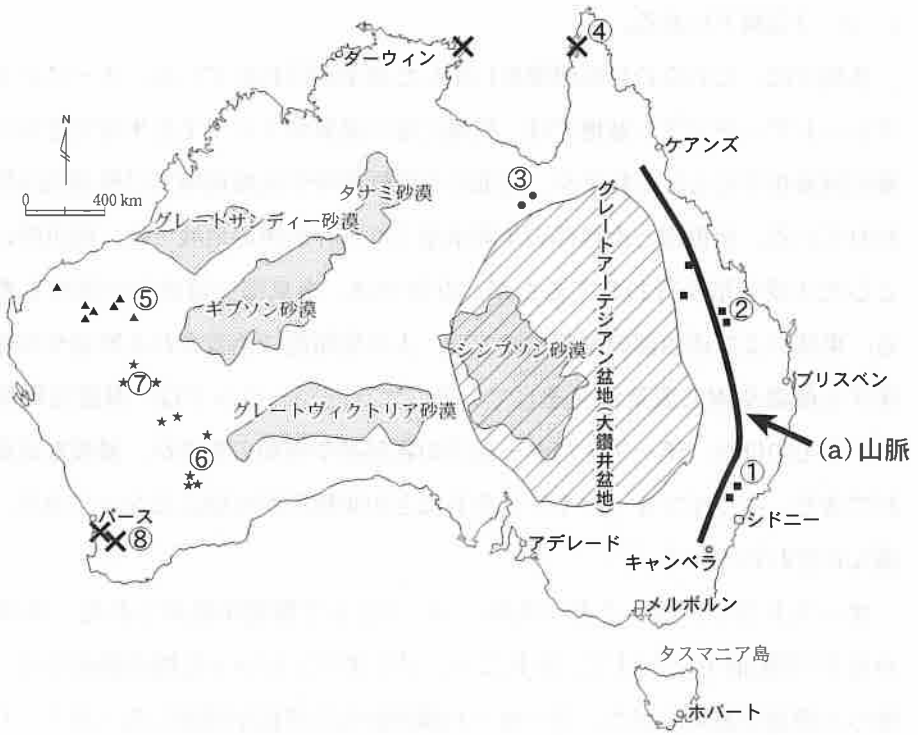
オーストラリア大陸の大部分は，風化や侵食が進んだ侵食平野である。標高500 m 以下のなだらかな平原が卓越する中で，大陸の中央付近には周囲より硬い地層が取り残されたウルルなどの残丘がみられる。大陸東岸の(　a　)山脈もなだらかな山脈で，その西側にはグレートアーテジアン盆地が広がっている。国土の大部分は中緯度高圧帯下で乾燥帯 B が広がっており，年降水量 800 mm 以上は沿岸のごく一部に限られる。ニュージーランドは，日本と同じ活断層や火山などが帯状に分布する(　b　)に位置し，国土は弧状列島をなしている。高緯度の南島にはフィヨルドなど氷河地形もみられる。火山や地震も多く，温泉や地熱発電所が点在する。ニュージーランドは暖流と偏西風の影響で，全域が年間を通じて湿潤な(　c　)気候下にある。

各地では，これらの自然環境をいかした産業が行われている。オーストラリアのグレートアーテジアン盆地では，乾燥に強く品質のよい羊毛を生産できる(　d　)種の飼養を中心とした牧羊が，北部の半乾燥地域や乾燥地域では粗放的な牧牛が行われている。南東部と南西部の年降水量 500 mm 前後の地域では，輸出向けを中心とした小麦栽培が行われてきたが，近年では，南東部では肉牛の肥育も増えている。東部および南西部の湿潤地域では，人口集積地で消費される野菜や生鮮品を生産する酪農や園芸農業が発達している。ニュージーランドは，湿潤な環境を利用し，羊毛のほか，チーズ・バターなどの乳製品や肉類の生産が，温暖な北島で行われてきた。キウイフルーツやアボカドなどの果樹生産も盛んとなっており，輸出も盛んに行われている。

オーストラリアは，イギリスの(　e　)として開発が進められた。18 世紀後半から 19 世紀前半にかけて，シドニー，ブリズベンといった拠点都市から，内陸地域へと開発が進められた。ヨーロッパ諸国からの移民が増加した一方で，(　f　)ら先住民は白人との衝突や疫病によって居住地を追われ，人口減少に見舞われた。特にオーストラリアでは，19 世紀のゴールドラッシュをきっかけに，中国人の移民も増加したことから，(ア)白人を優遇する人種差別政策がとられた時期もあった。しかし，第二次世界大戦後の経済発展から労働力が不足するようになり，1970 年代

後半までに人種差別政策は撤廃され，移民を積極的に受け入れる政策がとられるようになった。多様な人々を抱えるオーストラリアでは，政府が実施する政策は，多文化主義(イ)にもとづいたものとなっている。ニュージーランドでは，1840 年に先住民の首長と条約を結ぶことで，植民地化が進展した。国会でも先住民の議席が確保されているほか，権利や伝統文化を守る取り組みが行われている。

問 1　図 1 を参考にして，オーストラリア大陸で産出する鉱産資源について，大地形，その代表的な産出地名および産出地との関わりを示す以下の表を作成した。空欄(あ)と(い)に適する語を記入するとともに，(う)～(か)は図 1 から当てはまる番号を選びなさい。



注：★，×，■，▲，●はそれぞれ同じ鉱山資源の産出地を示す。

図　1

表　1

産出する鉱産資源	石　炭	鉄鉱石	ボーキサイト	金
大地形	(あ)	(い)	—	—
代表的な産出地名	モウラ (モーラ)	マウントホエール バック	ウェイパ	カルグーリー
産出地の番号	(う)	(え)	(お)	(か)

問 2　文中の空欄(　a　)～(　f　)に適する語句を答えなさい。

問 3　グレートアーテジアン盆地では，家畜の飼養に自噴井である「掘り抜き井戸」を利用している。この掘り抜き井戸が存在する理由について簡潔に説明しなさい。

問 4　オーストラリアやニュージーランドでは，長期にわたって鉱産資源や農産物など一次産品の輸出に依存する経済構造が形成されていた。①一国の産業構造が一つまたは少数の農産物や鉱山資源に依存する経済構造を何と呼ぶか，そして，②その問題点について簡潔に説明しなさい。

問 5　表 2 に，オーストラリアの人口に占める外国生まれ人口および外国人流入人口の推移を示した。①下線部(ア)の政策の名称を答えなさい，②このような人口的な特徴を持つオーストラリアでは下線部(イ)にもとづいた政策が進められている。その具体例を簡潔に説明しなさい。

表　2

a）人口に占める外国生まれの人口（単位：千人）

	2000年	2010年	2022年	
				人口比（%）
	4,412	5,881	7,502	*29.2*

b）オーストラリアへの外国人流入人口（単位：人）

国　名	1991年	2010年	2021年	
				構成比（%）
インド	5,100	23,500	26,400	*17.2*
中　国	3,300	24,500	21,000	*13.7*
イギリス	20,700	26,700	9,900	*6.4*
フィリピン	6,400	10,200	9,800	*5.8*
ベトナム	13,200	3,800	7,800	*5.1*
その他	73,000	113,500	78,900	*51.8*
合　計	121,700	202,200	153,800	*100.0*

（資料：OECD International Migration Outlook 2023）